

教育目標 ぶるさとを愛し、夢に向かって頑張る子どもの育成へえがおいっぱい げんきいっぱい いのちいっぱい 東っ子

東小だより



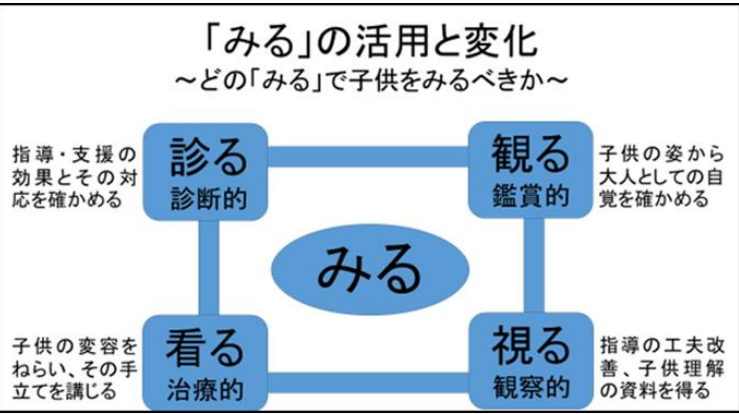
文責 校長 田崎正明

長月号

二学期が始まりました

四十日間の夏休みが明け、八月三十日より二学期を始業しました。この夏は異常気象による大雨が続くなど、感染症と併せて命を守る行動に向けて「警戒」「注視」「対応」の日々となりました。子供たちにとっても昨年度に続き、開放感や達成感がもう一步の夏休みとなったことでしょう。保護者の皆様方には、期間中、学校から提示しました課題への取組についてご指導、ご支援いただき、感謝申し上げます。始業式から三週間が経ちましたが、子供たち一人一人がひと夏を越え、一学期の姿から一回り大きくなったようにも感じています。二学期は多くの行事を予定しており、その中で、心に響く体験による豊かな感性の醸成を目指しているところでもあります。年度を通じて、生活・学習環境として、とても良い時期です。心身ともに成長できるように、一つの行事、教育活動に力を入れてまいりたいと考えます。ご支援よろしくお願い致します。

話は変わりますが、「ふとみる」という言葉が気になり、考えを巡らせていました。みる「こと」は、私たち大人にとつて、子供たちと関わるうえで、とても重要な行為であると感じます。子供を知るという原点からみて、得たことをもとに対処する」ということに変化や発展していきます。思いついただけでも「見る」「観る」「看る」が思い出せました。同じ「みる」であっても、それぞれに意味が違い、行為も変わってきます。子供たちの状態に応じて、私たちが関わり方を工夫していかねければならないと感じました。



わかる・できる授業づくり

本校では、子供たちが基礎的な学力を身に付け学習内容の理解と活用、そして、応用を図ることができるように、誰もがわかる授業、学習のつまづきに丁寧に対応する授業の展開に向けて日々努力しています。特に本年度は、子供たちが自分の学習の状況に応じて、学び方を選べるように、選択のある学習活動の充実」にむけた研究に取り組んでいます。子供たちが学び方を選択できることで自ら進んで学習に取り組もうとする意識が高まります。それは主体性の高まりであるともいえます。主体性が備わった子供は、学習への意欲と取り組み方が変わり、学びを深めることができます。そこで、低学年時期から、わからないこと」できないことを認識させ、それを言葉で伝え、どう学習を進めていけばよいかを深く意識させていくように働きかけています。高学年では、自分の学習の状況に合わせて、学び方を選択し、「一人で」「友達と」「教師と」「次の活動に向けて」という具合に学習を進める選択ができるように学び方の定着を図っているところです。家庭学習においても、授業内容の理解「単元内容の理解」「定期間における理解と定着」の三つの視点から子供たち一人一人の状態を捉え、その子に応じた課題を提示するように心がけています。感染症防止の取組から学校生活における制約があります。その中にある授業づくり、学力充実への取組です。「工夫」と「改善」が私たち教職員に求められています。どんな状況下にあっても、私たち東小の教職員は、子供たち一人一人のために、誰一人取り残すことなく、最大限の学びを保障する」努力を絶やさない覚悟です。皆様方とともに、心をつなげて、子供たちの今、これから、将来に向けて、進んでまいりたいと思います。本校の教育への深いご理解とご協力を心からお願い致します。

脳を成長させる5つの要素

- ①熱中体験**
子供が興味をもったことを、とことんやらせる。
- ②知的好奇心**
興味をもったことに取り組むことで知的好奇心が高まる。好奇心は、脳の成長の原動力。
- ③自己肯定感**
子供の努力をほめてあげる。
- ④しなやかなマインドセット**
失敗してもまた挑戦しようという気持ちを大切に。(「ガチガチ」でなく「しなやかに」)
- ⑤生活習慣**
「寝る子は育つ」は脳にも当てはまる。

「自分が夢中になったことを辛うじて覚える」という経験を通じて、脳の使い方を理解させる。

- ◆勉強の暗記はつらいが、趣味に関することなら苦も無く覚えらる。
- ◆好き・嫌いを判断する脳の「扁桃体」と記憶に関係する「海馬」の密接な関係

「結果」をほめるのではなく、「努力」をほめる

- ◆成績をほめられるよりも努力をほめられた子供の方が学習意欲が高く、失敗のあとも課題に前向きに取り組む。
- ◆結果ばかりほめることの問題点は、失敗したときに「結果が出なかった自分はダメなんだ」と落ちこんでしまう。

「生活習慣」が脳の土台をつくるという認識を持たせる

- ◆しっかりと睡眠をとること、食事で十分な栄養をとること、体を動かして運動することは脳の成長を促す。
- ◆「寝る・食べる・体を動かす」は生活習慣である。

「頭がよくなる科学的な方法」(日経BP)より

今後の行事等(予定)

感染症の拡大状況では、変更の場合があり、未確定のものもありますので、ご了承ください。

- 10月1日 集団登校・交通指導
- 10月18・19日 集団宿泊活動
- 10月21日 知能検査(1.3.5年生)
- 11月4・5日 修学旅行(6年生)
- 11月21日 学習発表会
- 11月9日 つなしの会(4年生)
- 11月16日 生活科遠足(1.2年生)
- 12月2・3日 県学力調査
- 12月10日 授業参観・持久走大会
- 12月24日 二学期終業式

くまもと家庭教育十か条 第九条 (地域全体での子育て) この子もあの子も 地域で子育て みんなの宝

今月、東っ子に伝えたこと

夏休みに心が動いたこと①

東京オリンピック～感動をありがとう～

- ◆選手の姿に感動。そして、大会を支えていたボランティアの方々の姿に感動
- ◆選手の誰もが、自分の努力がまちがっていかたことを感じていました。そして、自分を今まで支えてくれた人への感謝の気持ちをつたえていました。

**人は、一人では生きられない。
おたがいに支え合っているんだ。**



夏休みに心が動いたこと②

コロナウイルス感染症～自分でまもる命 ウイルスにまけない～

- ◆ふえ続ける感染者、「自分も感染するかもしれない」というおそろしさ
- ◆7クンは打ったけど、安心できない。
- ◆勝手な行動で、感染してしまう。医療関係者の方々は命がけなんだ。

自分でできることを一生懸命にしよう。



夏休みに心が動いたこと③

東っ子の「人権の花」～大雨や日でもにも負けない強さ～

- ◆美しく咲いた花、命の輝きがありました。
- ◆みなさんと先生たちでの取組で、夏を越えました。これからは、子孫を残すために、種をつくる花々です。

**命のつながり、人を大切にする心の
つながりを感じよう。**

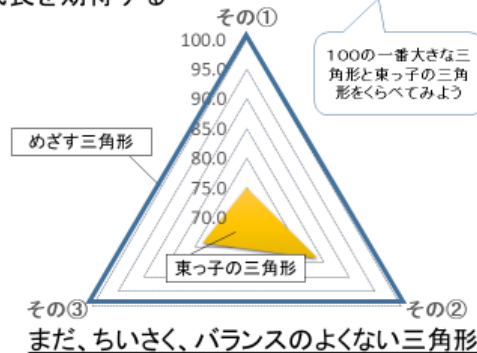
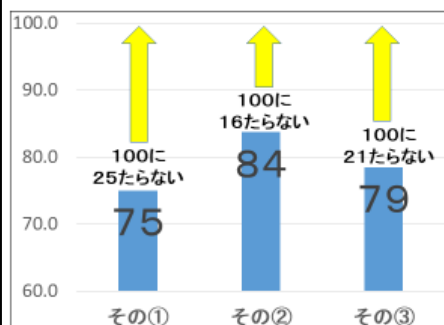


一学期の東っ子は

その①・・・自分のよさを感じ取る・自分を大好きになる

その②・・・友だちの役立つ・友だちのよさに気づく

その③・・・自分をふり返る・自分の成長を期待する



100の一番大きな三角形と東っ子の三角形をくらべてみよう

自分を好きになろう。

すると、「自信」「やる気」「友だちと仲良くなれる」

その①・・・自分のよさを感じ取ろう。そして、自分を大好きになろう。

そのために、先生方にたくさん、ほめてもらおう

その②・・・友だちの役立つことをしよう。そして、友だちのよさに気づこう。

そのために、学習の取組方と友だちとの関わり方を変えてみよう。

その③・・・今の自分をしっかりふり返ろう。そして、自分の成長を期待しよう。

そのために、目標を達成することにしっかり取り組んでみよう。

実行してみることに

- ①授業では
自分の学習の様子から「どうしたい」かを、みんなに伝えられる。
- ②生活では
あいさつを、いつでも考えてできる。
- ③心づくりでは
学校のことを考えて、一生けんめいに働ける。

二学期には、こんなことが かっこいいと思える「東っ子」になれる

- ①きまりやルールを守ることは、かっこいい
- ②「自分を好きになる」「人のためになる」ことは、かっこいい
- ③「目標に向かう」「達成にむけて方法を選べる」ことは、かっこいい
- ④「家族を大切にする」「感謝の心を表せる」ことは、かっこいい

家での自分の作り方

- ①:自分の事は自分でする
- ②:あいさつができるようになる
※行ってきます・ただいま・いただきます・ごちそうさまでした
おやみすなさい・おはようございます
- ③:お家の人と、よく話しをする
- ④:朝ご飯をお腹いっぱい食べる
- ⑤:十分な睡眠をとる
- ⑥:スマホ、タブレット、ゲームの使い方のルールを守る

友だちに「えんりよ」せず、先生に「えんりよ」せず、
自分に「えんりよ」しない。

**みんな仲間、友達、味方だよ！
一人では、何もできない。
でも、仲間、友達、味方がいれば
何でもできる。うまくいく。**

教職員と共通理解したこと

日本の「世界の幸福度ランキング」の評価

- ・一人当たり国内総生産（GDP）・・・高い
- ・社会保障制度などの社会的支援・・・低い
- ・健康寿命（健康）・・・高い
- ・人生の自由度（人生選択の自由）・・・低い
- ・他者への寛容さ・・・低い
- ・国への信頼度・・・高いほう

※主観的満足度が低い日本
※「頼れるものがなく、選択の自由がなく、人にやさしくない」

- 幸福度を上げる
- ・「頼る・頼られる」ことで得る幸福
 - ・「選ぶ・選べる」ことで得る幸福
 - ・「優しさ」を感じることで得る幸福

東小の取組と合致
自己肯定感・自己有用感
選択のある学習活動
相手意識・人権意識

「主体性を認め、ほめる」この先にある未来の姿は

子ども同士が認め合う

ほめること・認めることは、意欲の喚起とともに、モデルケースをつくる。それは追従者を生み、活動の発展が期待できる。

大いに実行してみよう。

集団(学級)を認める 個を認める